

授業の視点	「どちらが多い」「～のちがいはいくつ」など、比較の表現とブロック操作を結びつけ、1対1で比較の場면을正しくとらえる操作活動と、問題作りにおける言語指導の工夫
-------	--

1 単元 のこりはいくつ ちがいはいくつ

2 目標

- 減法が用いられる場面をとらえ、減法を用いようとする。  
(算数への関心・意欲・態度)
- 減法が用いられる場面において、おはじきなどの半具体物を操作した結果が同じであると考えられる。また、数の仕組みに着目して、計算の仕方考えることができる。  
(数学的な考え方)
- 10以下の数から1位数をひく減法の計算方法を理解し、適用問題を解くことができる。  
(数量や図形についての表現処理)
- 求残や求補、求差の場面について、減少の意味や、被減数が10までの減法計算の仕方を理解することができる。  
(数量や図形についての知識・理解)

3 指導にあたって

本単元は、前単元の加法の学習と同様の展開で学習し、減法を減少の場面から導入し、次に比較の場面を取り上げ、どちらも「ひきざん」の場面として統合して理解させていくことをねらいとしている。

今まで児童は、あわせていくつ、ふえるといくつの加法の学習はしているが、減法については初めて学習する。今までの日常経験をもとに、残りは？違いは？という問題作りの前提調査をした。

〈前提調査〉 (平成22年6月7日 調査人数23人)

問 題 ( ) は正答	正答( 人)	誤答( 人)	無答( 人)
1 つぎのもんだいにこたえなさい。 しき $3-1=2$ いくつといくつのがくしゅうで、3は1と2ですというがくしゅうをしましたね。 $3-1=2$ のしきで、ちがいをくらべるひきざんのおはなしを、したのえにあうようにつくみましょう。  (図略)	・比較の話 (**人)	・減少の話 (*人)  ・増加の話 (*人)  ・どちらでもなし (*人)	(0人)

前提調査の結果、本学級の児童は、日常生活の中でたす場面や比べる場面を無意識に行っており、加法減法に関する関心が高いことがわかった。

そこで本時では、教科書の挿絵を大きく拡大した場面絵を用意し、まず場面の絵を正しく見取らせて、加法に比べてイメージがしにくく混乱が予想される比較の場면을、しっかり確認して問題が作れるように支援していきたい。

4 学習計画と評価規準 (8時間取り扱い、本時は第2次の第3時)

◎は評価の重点

- 第1次 のこりはいくつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- 第2次 ちがいはいくつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

次	時	学習活動・内容	評価の観点				評価規準 (主な評価の方法)
			関	考	表	知	
2	1	・比較の場면을数字や記号を用いて減法の式に表して、答えを求める。	◎		○	○	◎比較の場面について、減法に関心をもつ。 (観察・発表) ○比較の場면을減法の式に表して答えを求めることができる。 (ノート・発表) ○比較の場面の減法の意味を理解している。 (観察・発表)
	2	・比較の対象となるものの数をとらえ、減法の式に表し			◎		◎比較の場面で対象となる物の数をとらえ、減法の式に表して答えを求めることができる。

	答えを求める。 「おさらとけえきのかずのち がいは、なんこでしょう。」				(ノート・発表)
③	・減法の式と絵を見て比較の 問題を作る。 「6-3のしきになるおはな しをつくりましょう。」		◎		◎減法の式と絵を見て、比較の場面をとらえ、比較 の問題を作ることができる。 (ノート・発表)

第3次 ひきざんカード・・ 1時間  
第4次 0のひきざん・・ 1時間

5 本時の学習

- (1) 目標 減法の式と絵を見て、比較の問題を作ることができる。  
(2) 準備・資料 P47の絵の拡大図、ブロック、既習の要点カード、例文カード、ワークシート(一人4枚)  
発表ボード  
(3) 展開 ☆思考力・表現力を高めるための手立て

学習活動及び内容	形態 (時間)	指導上の留意点・評価
<p>1 学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>④ 6-3のしきになる おはなしをつくり ましょう。</p> <p>問題の絵図をコピー</p> </div> <p>(1)既習事項の確認をする。  ○ 比べる場面の言い方・聞き方は  ・「～より○○おおいでしょう。」  ・「どちらが、○○おおいでしょう。」  ・「かずのちがいは、○○でしょう。」</p> <p>(2)本時の学習の確認をする。  ○どんな場面か、お話の場面はいくつ作れる か、おおまかな確認をし合う。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびをしている子が6人いて、いすで 見ている子が3人いる。</li> <li>・女の子が6人いて、男の子が3人いる。</li> <li>・白い花が6本咲いていて、赤い花が3本咲 いている。</li> <li>・お話の場面は3つある。</li> </ul> </div> <p>2 自力解決をする。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される児童の算数的活動</p> <p>(1)どんな場面か、ブロックを置いたり印を付 けたりする既習の操作と結び付けてみる。  ・絵図の上にブロックを置いて調べる。  ・机の上に同じ仲間同士ブロックを並べ1対 1の対比で比べる。  ・絵図に○印や△印を付け、仲間分けをして 比べる。</p> <p>(2)場面がわかったら、操作と結び付けてワー</p> </div>	<p>一斉 (10)</p> <p>個別 (15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を提示し、今まで「～より何台多いでし ょう。」「どちらが、何匹多いでしょう。」「数の ちがいは、何個でしょう。」という問題に答える 学習をしてきたことを想起させ、今日はみんな が式と絵をもとにお話を作ることを説明し、意 欲付けを図るようにする。</li> <li>・ノートには、前時に教師が教科書よりやや大き 目にコピーしたものを貼付させておき、家で、 どんなお話がいくつ作れるか、考えて書いてき てもよいことを伝えておく。</li> <li>☆比較の場面の問題作りで必要な算数的用語を確 認させることで、確かな思考力・表現力を身に 付けさせたい。</li> <li>・絵図を見てどんな場面のお話か、挙手した児童 に聞き、場面の把握状況を観察する。</li> <li>・お話づくりに意欲をもたせるため、絵図入りの ワークシートを一人に4枚分用意して、お話づ くりができるごとに1枚取りに来させるように する。</li> <li>・児童の様子を観察し、理解度を確認しながら 机間指導をして、表現が不完全な場合は、教 師が補足するようにする。</li> <li>☆お話がスムーズに作れない児童には、例文カー ドを示し、その文を写してもよいことを助言す</li> </ul>

クシートにお話づくりをする。

- ・「どちらが～多いでしょう。」のお話作りをする。
- ・「～の数の違いはいくつでしょう。」のお話作りをする。

(3)お話の場面は3つあることを操作を通して確かめる。

- ・白い花が6本、赤い花が3本咲いています。どちらが何本多いでしょう
- ・縄跳びをしている子が6人、イスで見ている子が3人います。どちらが何人多いでしょう。
- ・女の子が6人、男の子が3人います。女の子と男の子の違いは何人でしょう。

3 発表し、考え方を学び合う。

- (1)白い花が6本、赤い花が3本咲いています。どちらが何本多いでしょう。
- (2)縄跳びをしている子が6人、イスで見ている子が3人います。どちらが何人多いでしょう。
- (3)女の子が6人、男の子が3人います。女の子と男の子の違いは何人でしょう。
- (4)女の子が6人、男の子が3人います。どちらが何人多いでしょう。

4 本時のまとめをする。

- ・初めて分かったこと、思ったことを書く。
- ・振り返りのカードを書く。

5 次時の確認をする。

ひきざんカードをつかって、ひきざんのれんしゅうをしよう。

る。

☆自分の考えをペアで説明する場を設ける。

一斉

(15)

- ・場面にふさわしい多様な問題が発表されるように、机間指導の際に発表する児童を確認し、発表ボードを使って準備させておく。
- ・発表を聞きながら、自分の考えと比べたり、一番わかりやすく場面にふさわしい問題はどれかを考えさせる。
- ・考え方の(4)の作問は難しいので出ない場合は、教師がこんな問題もあるという紹介をする。

— ◎評価(考) —

【「おおむね満足できると判断される状況】

ブロック操作と結び付けて、場面把握ができ比較する3つの場面のお話作りができる。

(観察・ノート)

【「十分満足できる」と判断される視点】

絵図に○や△の印を付けて違いを確認したり、ブロック操作をして1対1の対比で違いを確認したり、問題づくりの要素を的確にとらえたお話づくりができる。

(観察・ノート)

【「努力を要する」と判断された児童への手立て】

ブロック操作と結び付け、更に数を補う作問や言葉を補う作問などから問題づくりに慣れていくようにする。

簡単なワークシートを使って減少の場の用語が正しく使えるように確認させ、問題づくりと一緒に考えていく。

一斉

(3)

- ・初めて分かったこと、思ったことなどを書かせ、本時の学習を振り返らせる。

一斉

(2)

- ・引き算カードを使って引き算したり、カード並べをすると、いろいろなことに気がきます。どんなきまりがあるか学習していきましょうと言って、次時への意欲付けをするようにする。